

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 8 日現在

機関番号：32605

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25381041

研究課題名(和文) 戦時下におけるキリスト教学校教育の動態 統制に対する対応の多様性を中心に

研究課題名(英文) The movement of Christian schools in wartime: mainly focusing on the variety of attitude toward the control by the government

研究代表者

樽松 かほる (KUREMATSU, Kaoru)

桜美林大学・心理・教育学系・教授

研究者番号：90112656

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：戦時下のそれぞれのキリスト教学校が国家政策とどう対峙して、掲げる教育理念とどう葛藤しつつ、国家政策に対応してきたかを歴史的、実証的に検討することを目的として、研究を推進してきた。キリスト教諸学校の教育目的の変更状況や個別学校史の視点からの研究により、同時期の国家政策への具体的な対応の違いとその背景、要因等が明らかになり、数校の事例という限界はあるが、今後比較研究を発展できる成果を報告書に収めた。

研究成果の概要(英文)：We were proceeding the historical and positive studies on the attitude of Christian schools in Japan toward national policies which forced them to cooperate with the war regime. They had to struggle and change their educational ideal to compromise with the policies during the wartime. From the perspective of these studies, we found the various attitudes, and its background or factors toward the national war policies by considering the alteration of the educational purposes and the history of each school. Although we researched only limited examples in the report, we could collect results which can be developed further comparative study of Christian school history.

研究分野：日本教育史

キーワード：キリスト教学校教育 国家統制 戦時下教育 統制への対応 教派 神学校

1. 研究開始当初の背景

樽松かほる、高瀬幸恵、辻直人の3名は、キリスト教学校教育同盟の百年史の編纂事業(2001年~2012年)に関わった。3名は、特に『キリスト教学校教育同盟百年史』(2012年刊行)の「十五年戦争期(1930-1945年)」と「復興期(1946-1955年)」の叙述を担当した。その経験から、個別学校史を調査する機会を得た。多くのキリスト教系個別学校史は戦時下を「受難の時代」とか、「国家からの抑圧」というトーンで自画像的に描いている場合が多い。また、個別学校史においてキリスト教学校教育同盟に触れている事例は、1940年に開催した加盟校校長会議の決議のみである場合が多い。各キリスト教系学校にとって、キリスト教学校教育同盟は何だったのかという素朴な疑問をもった。また、2011年8月、第30回日本教育史研究会サマーセミナー「戦前日本におけるキリスト教主義学校と国家」(企画 大島宏)が、同志社大学で開催された。同セミナーでは、辻直人、高瀬幸恵、大島宏が報告、米田俊彦、駒込武、大江満がコメンテーターとして示唆に富んだ発言を行った。大島は「第三〇回日本教育史研究会サマーセミナーを終えて」のなかで、今後の研究課題は2点あるとして、キリスト教団体や学校関係者にとってのキリスト教主義学校の存在意義とその多様性を明らかにすることとキリスト教主義学校に対する統制についてであると指摘している。各キリスト教学校の統制に対する対応を横断的に比較検討し、対応の多様な実態を多面的に明らかにする作業は多くはなかった。共同研究によってこそ、そうした研究が可能となるのではないかと考えた。

2. 研究の目的

本研究は、戦時下(1931年~1945年)、キリスト教系学校が国家の教育統制にどのように対峙し、対応していったかを各学校史関

係の原資料に基づき実証的に検証することを目的とした。それぞれのキリスト教系学校の多様な対応の諸相を明らかにして、キリスト教系学校が国家統制に対して単に追従的であったとする通念的な見方を再考し、横断的な比較研究をめざした。

3. 研究の方法

できるだけ教派の異なった学校をそれぞれが取り上げ、資料に基づき実証的に戦時下における各学校の国家政策への対応を検討することを計画したが、余りにも多くの課題が山積して、しかも問題は複雑に入り組んでいる様相が予測された。そこで、全体のテーマを意識して各自の研究関心から自発的にテーマを設定して研究に取り組むことにして、互いの意見交換を重ねつつ共同研究を進めることにした。

2013年7月、初回の研究会(桜美林大学)を開催し、その後年2回の1泊2日の研究合宿(桜美林学園伊豆高原クラブ、2014年3月16~17日、9月10~11日、2015年3月22~23日、9月1~2日)を開催して、毎回全員が研究報告を行い検討しつつ共同研究を進めてきた。2016年3月にそれぞれの研究成果を合同で検討し、横断的な比較検討した。

4. 研究成果

3年に及ぶ研究の成果をまとめて概観して、さらなる研究の方向性や課題を深めたいと思い、報告書を作成した。各自の研究成果は以下の通りである。「戦時下におけるキリスト教主義学校の経営法人の目的変更をめぐる動向 キリスト教主義と国体観念の強調をめぐる」(大島宏)は、これまでの先行研究では等閑視されてきた『基督教主義学校の目的に関する調査』(文部省教学局、1940年)をもとに、戦時下におけるキリスト教主義学校を経営維持する法人やその経営に係る学校の目的の変更、無変更、文

言追加の事例と傾向について考察した。

、 は個別学校史の事例を対象として、統制への対応を考究した研究である。

「 . 戦時体制下におけるキリスト教系高等女学校の妥協と抵抗 立教高等女学校を事例として 」(高瀬幸恵)は、戦時下の立教高等女学校を取り上げ、同校がどのような統制を受け、宗教教育や宗教上の儀式の実施についてどのような妥協や抵抗をしたのかを検証した。「 . 戦時下キリスト教学校の当局からの統制への対応についての考察 同志社高等女学部の事例を基に 」(柴沼真)は、戦時体制下において、文部省・軍部・地方教育当局が同志社高等女学部に対して行った統制とそれへの対応について明らかにすることを試みたものである。学校法人同志社と戦時体制との関係性の影響などもふまえた複次的な要素を考慮するとともに、抵抗の多様性や当時のキリスト者たちの現実的対応を描くことによって、戦時下のキリスト教主義学校への統制を捉えなおそうとした論稿である。「 . 関東学院の国策への対応と建学理念の‘揺らぎ’ 」(影山礼子)は、1895(明治28)年開校のアメリカ・バプテスト・ミッション設立の男子中等普通教育機関であるミッション・スクール関東学院について、とくに戦時体制下の財団法人関東学院中学部の時期に焦点をあて、財団法人関東学院寄付行為にみる建学理念の変遷過程に注目し、その国策への対応の仕方と教育の特質を考察している。

、 は、1937年以降を中心としたアジア大陸への侵略を強めていく時代におけるキリスト教系学校の戦争への協力の形をテーマにした事例研究である。「 . 興亜教育とキリスト教主義学校 学科等改編に見るキリスト教主義学校の戦時 政策への対応 」(辻直人)は、政府が1938年から東亜新秩序を提唱し、1940年からは大東亜共栄圏の建設を明言するようになった頃、この対アジ

ア政策を支えるための人材養成として興亜教育が行われるようになった。明治学院や関西学院に見られた東亜科の実態を明らかにしている。また、興亜教育の実施は、宣教師らの学校教育からの排除と一体で行われたことも明らかにした。

「 . 戦時下の北京崇貞学園への日本政府の財政援助 」(樽松かほる)は、1921年北京に建てられた崇貞学園が舞台である。満州事変、日中戦争、大東亜共栄圏へと、日本政府のアジア大陸への侵略が拡大するにつれて、崇貞学園への日本政府の財政援助は拡大している状況を外交史料館の文書を利活用して、その実態を明らかにした。特に、日中戦争後の体育館建設費と崇貞学園からの選抜留学生制度への援助を取り上げ、支援という形における国家統制の実態を明らかにした。

各個別学校史の事例研究から、国家政策への対応の多様な実態を明らかにできたが、取り上げた学校数は限られており、類型化したり、比較研究までには至らなかった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

柴沼真、戦時下キリスト教学校における統制に対するキリスト者の申請についての一考察 同志社高等女学校と福岡女学院の資料を基にして一、大阪成蹊大学 紀要、査読無、No.2,2016,pp.65~73

影山礼子、年表戦時下のミッション・スクール中学関東学院 国家への対応をてがかりに、関東学院大学 教養論集、査読無、No.26,2016,pp35~49

辻直人、長老教会宣教師ヘンリー・ポーベンカークの生涯 日本での戦

中戦後における活動を中心に一、明治学院大学キリスト教研究書紀要、査読無、No.48,2016,pp291～308

樽松かほる、戦時下の北京・崇貞学園への日本政府の財政援助(2)

資料紹介と若干の考察、桜美林大学教職課程年報、査読無、No.10,2016,pp.141～145

樽松かほる、戦時下の北京・崇貞学園への日本政府の財政援助(1)

資料紹介と若干の考察、桜美林大学教職課程年報、査読無、No.9,2015,pp.113～117

〔学会発表〕(計4件)

辻直人、「ラマ-ト事件」の真相と歴史的意義 キリスト教史学会 2015,9,18 東京女子大学

辻直人、長老はキリスト教学校の日本人指導者と宣教師が見た戦時下 明治学院高等学部東亜科の動きを中心に一、東アジアキリスト教交流研究会第5回ワークショップ in Nanzan 2015,1,30, 南山学園研修センター

Naoto Tsuji The Establishment of the Department of East Asia Students at Meiji Gakuin College in 1940 International Symposium on Modern Chinese Higher Education in Global Perspective &150th Anniversary of Tengchow College, 2014,10.12,山東大学(中国)

高瀬幸恵、1940年前後における学校統制 文部省総合視察を中心に一、教育史学会第58回大会、2014.10.4、日本大学文理学部

〔図書〕(計1件)

樽松かほる、大島 宏、影山 礼子、柴沼真、高瀬 幸恵、辻 直人、共著、戦時下キリスト教学校教育学校教育の動態 統制

に対する対応の多様性を中心に一、私家本、190頁、2016

6. 研究組織

(1)研究代表者

樽松 かほる

桜美林大学・心理・教育学系・教授
研究者番号：90112656

(2)研究分担者

大島 宏

東海大学・課程資格教育センター・准教授
研究者番号：10350323

影山 礼子

関東学院大学・法学部・教授
研究者番号：20245286

柴沼 真

大阪成蹊大学・マネジメント学部・准教授
研究者番号：40388674

高瀬 幸恵

立教女学院短期大学・幼児教育科・准教授
研究者番号：30461792

辻 直人

北陸学院大学・人間総合学部・教授
研究者番号：70523679